



研究トピックス

環境と科学に興味のある人材を育成する

専門分野

微生物学 理科教育学

松崎 雅広 MATSUZAKI Masahiro

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymidygydgy>

研究概要

- ・小学校理科の教育実践、社会人向け講座の開講
- ・生活に関連する科学の知識の理解

研究シーズの応用

藍染教室や南極観測隊としての講演も可能。

キーワード

生活の中の科学 野菜栽培技術 食育（調理師免許取得）



研究トピックス

海洋環境保全のための生物多様性学

専門分野

動物系統分類学 海洋環境科学

岡西 政典 OKANISHI Masanori

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymsgkodggy>

研究概要

海洋は地球の7割（面積）から9割（体積）を占める重要な環境である。近年、プラスチックによる汚染などによって多くの海洋生物に影響を与えられていることが問題となっており、その保護が喫緊の課題となりつつある。しかし海洋生物は水中におけるモニタリングの難しさから、その保護対策の選定が難しい。本研究では、環境DNA手法などの開発によって、海洋生物を対象としたモニタリング方法の策定を行う。

研究シーズの応用

企業が海洋環境を開発する際の海洋環境モニタリング法を提供することが可能。特に環境DNAモニタリング法は、最新研究に基づいた非破壊的な方法である。

キーワード

瀬戸内海 海洋環境汚染 海洋環境保全



研究トピックス

野生動物の生態を解明し、適切な保全・管理手法を考案する

専門分野

野生動物管理学

奥田 圭 OKUDA Kei

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymbkyogsggy>

研究概要

野生動物、特に哺乳類、鳥類を対象とした生態研究に取り組んでいます。近年、シカやイノシシなどの野生動物の個体数増加・分布域の拡大が全国的に生じており、人間社会との軋轢が顕在化してきました。このような状況を軽減するため、野生動物がどのような生態をしているのか明らかにし、その情報をもとに、彼らをどのように管理または保全していけば良いのか考える、「野生動物生態学」、「野生動物管理学」、「保全生態学」をベースにした研究を展開しています。

研究シーズの応用

野生動物の生態調査や被害対策の指導等に対応可能です。

キーワード

野生動物 生態 農作物被害対策



研究トピックス

生命の起源研究と熱水を利用する環境 技術開発

専門分野

化学 生命科学 環境科学

川村 邦男 KAWAMURA Kunio

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiygyyigy>

研究概要

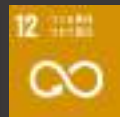
生命の起源を研究しています。このために世界に例のない熱水フローリアクターを開発しました。この手法は基礎研究だけでなく、環境改善技術シーズとして、応用展開が期待されています。私達の開発した熱水フローリアクターは、最高温度 400°C、圧力 1000 気圧で、0.002~200 秒までの短時間の反応を追跡できます。また、分光システムと結合して、様々な物質の反応過程を紫外・可視・近赤外領域で in situ 観測できます。また、鉱物や固体触媒を用いる反応にも適用できる装置も開発しました。すでに、固体触媒の開発ツールとして、また、繊維製品の熱水処理技術をこれらをベースに開発し、実用化をめざしています。

研究シーズの応用

固体触媒は化学プロセスの効率を改善する魔法の薬として、開発が進められてきました。しかし、これらの作用をその場観測することは難しかったです。私達の手法を用いれば、固体触媒の開発効率を劇的にアップできると期待されています。また、中規模サイズの熱水フローリアクターを用いて木綿廃棄物からフルフラールなどの有用成分を連続的に生成するシステムも開発しました。これらの実用化をめざすとともに、その他の展開も共同研究によって期待されます。

キーワード

環境技術 化学プロセス 自然科学のアウトリーチ



研究トピックス

地球温暖化防止のための炭素税やエネルギー政策などを研究

専門分野

環境経済学 環境政策論 持続可能な発展論

羅 星仁 NA Sungin

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=yimgigygygy>

研究概要

再生可能なエネルギー普及のための国際的な研究を行った。再生可能なエネルギー導入による経済・環境への影響を計量的に分析し、その効果を明らかにした。現在は、再生可能なエネルギー普及のための東アジアにおける国際協力の推進および、原子力発電の可能性や安全性などをめぐる国際協力に関する研究を行っている。

研究シーズの応用

気候変動防止のための様々な政策がこれから導入されると思います。その中でも再生可能なエネルギーをめぐる政策や低炭素社会を実現するためのカーボンプライシングなどの議論で見れるように企業の負担増を伴う政策の導入が見込まれます。そのような政策への企業の対応などに協力できるところがあると思います。

キーワード

地球温暖化 再生可能なエネルギー 持続可能な発展



研究トピックス

環境的影響の評価や環境財・サービスの 経済的評価

専門分野

環境評価論

長谷川 弘 HASEGAWA Hiroshi

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkigsgeggy>

研究概要

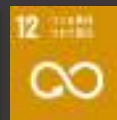
環境アセスメント、環境経済評価手法（TCM、CVM 等）、費用便益分析などを用い、SDGs を目指した環境配慮型公共事業の計画づくりや政策の策定

研究シーズの応用

複数考えられる事業案や施策アプローチのそれぞれについて、社会面、経済面、技術面、環境面等さまざまな視点から客観的に分析し総合的に評価することで、すべてのステークホルダー（地域住民、事業者、行政等）に合意される最適案を提案する。

キーワード

環境価値の見える化 SDGs 的総合評価 住民参加



研究トピックス

各個人の幸福感を高められる、市民参画 による持続可能なまちづくり

専門分野

都市計画 都市戦略 環境システム

三浦 浩之 MIURA Hiroyuki

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymigsgsggy>

研究概要

地方版総合戦略、長期総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、景観計画、環境基本計画、循環型社会形成推進地域計画、廃棄物減量等推進計画、住生活基本計画、社会資本総合整備計画、下水道整備計画等の策定に関連する研究に取り組むとともに、各自治体において、これらの策定にも関与しています。とくに、EBPM (Evidence Based Policy Making) と市民関与による政策・計画の立案、オープンガバナンス、そして、これらに寄与するオープンデータに着目しています。

研究シーズの応用

政策・計画の立案における EBPM アプローチと、立案における市民関与の手法およびオープンガバナンス、そしてこれらに寄与するオープンデータについて、応用できるシーズを有しています。

キーワード

EBPM 市民関与 オープンガバナンス オープンデータ 協働